

〈研究発表〉

未来企画会議

みんなの社交界

初山 祥太郎¹⁾, 康 俊夫²⁾, 中根 健吾³⁾, 福井 篤人⁴⁾

¹⁾メタウォーター(株) 事業戦略本部 R&D センター 環境技術開発部 下水道技術開発 Gr
(〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-25 JR 神田万世橋ビル E-mail: hatsuyama-shotaro@metawater.co.jp)

²⁾川崎市上下水道局 水管理センター 水道施設管理課
(〒214-0034 神奈川県川崎市多摩区5-1-1 E-mail: kou-t@city.kawasaki.jp)

³⁾(株)日立製作所 制御プラットフォーム統括本部 情報制御第一本部 社会制御システム設計部
(〒319-1293 茨城県日立市大みか町五丁目2番1号 E-mail: kengo.nakane.ea@hitachi.com)

⁴⁾(株)明電舎 水・環境システム事業部 技術部 技術第三課
(〒141-8616 東京都品川区大崎5丁目5番5号 E-mail: fukui-a@mb.meidensha.co.jp)

概要

昨今の社会人は、平日、休日共に他者との交流が限定的になりがちである。こういった環境下では、仕事以外の分野において自身の成長の機会を得にくく、効率的にストレス解消を行うことも難しい。そこで、休日に自身の可能性の探求や他者とのコミュニケーションを図るための具体的な企画案「みんなの社交会」を検討した。本企画は、毎回異なるテーマへのチャレンジによる自己の成長と、バルーンパーティによる非日常な空間での交流を特徴とした、新しいイベントである。

キーワード：企画、社交界、セミナー、ストレス、交流
原稿受付 2018.1.10

EICA: 22(4) 17-19

1. はじめに

2017年度の未来企画会議におけるテーマは、「企画力の実践～100人に響く企画を創造する～」であり、企画の立案のみならず実践することを目標に活動を行ってきた。全5回のセミナーでは、企画作りを第一線で行っている様々な業種の方々からご講演をいただき、企画の提案や実践の考え方、楽しさ、難しさ等を学ぶ機会をいただき、企画を立案した。以下にその企画案を報告する。

2. 企画案 ～みんなの社交界～

2.1 背景と課題

(1) 閉鎖社会

私達は、社会人になると人との交流が会社という限られたコミュニティ内で行われ、学生時代からこれまで築いてきたコミュニティからも疎遠となる傾向にある。その結果、Fig. 1で示すように、私達の日常は家と職場の往復となり、閉鎖的になり易い。また、休日に至ってもTable 1で示すように、一人で過ごす時間が多くなる。

しかしながら、この閉ざされたコミュニティでのライフサイクルでは、外部からの刺激がないため、自己

成長の可能性を伸ばし難く、社会の成長の可能性までも摘んでしまっている可能性がある。

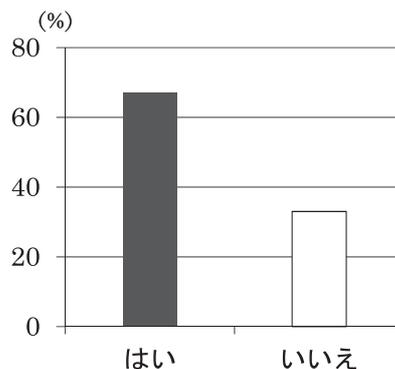


Fig. 1 You only shuttle between home and workplace every day?¹⁾

Table 1 How to spend working single male and female holidays?²⁾

		一人で過ごすことが多く、 家にいることが多い。	一人で過ごすことが多く、 外出が多い。	人と会うことが多く、 家にいることが多い。	人と会うことが多く、 外出が多い。
全体		58.3 %	21.8 %	4.0 %	16.0 %
性別	男性	57.5 %	24.5 %	3.5 %	14.5 %
	女性	59.0 %	19.0 %	4.5 %	17.5 %

(2) ストレス社会

現代社会では多くの人々がストレスを抱えて生きている。このストレスは、自覚症状があるものから潜在的なものまであり、その原因は、① 成果主義の導入、② 人員削減による負担の増大、③ 会社での人間関係等と様々である。こういったストレスの発散方法が見いだせていない人々は、最悪の場合「こころの病」に掛ってしまう可能性もある。病に掛ってしまった場合は、その人の人生においてとてもマイナスとなり、非常に深刻な問題となる。また、雇い主である会社にとっても、人材の損失は大きなダメージとなりえる。

2.2 求められる企画

前項で述べた問題点から、現代社会の課題は、次のようになる。

- ・自分の可能性を探せる機会や新しいことを始める機会を提供
- ・会社以外の人との関わりやコミュニケーションを取る機会の提供
- ・休日を充実つつ、上手くストレス解消できる機会の提供

これらの課題を解決する「新しいコミュニケーションの形」を次項より具体的に説明する。

2.3 既存の企画例

我々は、セミナーを受講した経験を活かし、これまでにない新しい企画を立てようと考えた。そこで、まず2.2項で挙げたコンセプトと類似し、かつ現存する企画例のメリットとデメリットを確認し、その上で新しい具体的な企画を立案することとした。既存の企画例におけるメリットとデメリットを **Table 2** に示す。本報に記載する新しい企画は、シブヤ大学や丸の内朝大学等のように様々なテーマを体験出来て、かつ交流会により多くの人と交流できるものとした。

Table 2 Advantages and disadvantages of events that is taking place

	メリット	デメリット
シブヤ大学 ³⁾	・費用がかからない ・好みの授業を自由に選択可能	・人の出入りが少なく交流が限定的
丸の内朝大学 ⁴⁾	・好みの授業を自由に選択可能	・費用がやや高額 ・丸の内近辺に在住の方以外は、受講が難しい ・人の出入りは少なく交流が限定的
東京スリパチ学会 ⁵⁾	・費用は少額 ・誰でも参加し易い	・歩くだけで良いので、やや受け身になりがち
AMBI ⁶⁾	・人の出入りは流動的	・仕事目的に特化、交流以外にイベントはなし
本企画	スクール+交流会 様々なテーマを体験可能 ⇒新しい自分を発見	—

2.4 具体的な企画案

(1) 企画概要

本企画では「自分の可能性を広げることに前向きな20歳以上の社会人」をターゲットに、毎回異なるテーマを決め、それに興味を持つ参加者同士が交流を行う通称「みんなの社交界」を実施する。テーマは趣味(写真、スポーツ、登山など)や仕事(起業セミナーなど)から幅広く選定し、その道のプロを招待し参加者に向けて講演をしていただく。開催場所はテーマに応じた場所(登山なら山など)とし、普段の忙しさから開放された非日常的な空間で参加者の交流を深めてもらう。

(2) 交流を促進する「バルーンパーティ」

社交界の最後には交流を促す一つの案として「バルーンパーティ」を開催する。交流会にバルーンを使用する理由として、参加者に風船のように軽やかに気持ちになっていただき、初対面の参加者同士でも打ち解けやすくなっていただく狙いがある。本企画は各参加者が持ち寄った(または運営より配布された)お酒に対応した風船を身につけ、また交流を促進するために手酌禁止でお酒を注ぎ合って交流を深めてもらうパーティである。本企画によりバルーンを目印に飲みたいお酒を持った参加者同士がふれあうきっかけを持つことができる。さらに、LEDライト付の風船を用いることで普段とは一味違った雰囲気でお酒を楽しむことが可能となる。バルーンパーティのイメージと当日のスケジュール案を **Fig. 2** に示す。



Fig. 2 The image of balloon party and the example of schedule

2.5 企画実行の想定課題と解決策

「みんなの社交界」における課題を以下に記載する。

(1) 講演料の削減

みんなの社交界は講師に講演を依頼することが必要となるが、その分野のプロを呼ぶことになれば、参加費が高くなる可能性がある。既存の企画例として紹介したシブヤ大学では、一般向けに公開講座を無料で提供しており、誰でも気軽に参加しやすい仕組みとなっ

ている。シブヤ大学はボランティア運営を行っているのではなく、企業や行政からの業務委託や個人からの寄付もあり、無料の授業を実現している。専門家を講師として招くことで参加費が高くなるのであれば、趣味として行っている方や自分のスキルを広めたい方にも講師を務めてもらい、参加費を削減することも有効である。

(2) 開催場所の検討

都内の貸し会議室で行う場合は、およそ1時間3,000~3万円、レンタルスペースで行う場合は、1日6,000円程度で貸し出しており、経費がかさむ可能性がある。しかし、定時後や休日の利用されていない時間帯で企業の会議室を有効に使うことができれば経費を削減することができる。また、自治体の許可を得て、川沿いや公園などの屋外開催も良いと考えられる。屋外のメリットは、企画の宣伝になることや飛び入りの参加もでき、更なる集客が望めることである。

(3) 集客方法の検討

2017年度の未来企画会議では、メンバーを2つのグループに分け、筆者らとは別のグループにて2017年12月に企画・開催された「100人サタ会議 in 熊谷」では、未来企画会議のメンバーとベーグル店の店主が共に企画を考え、実施している。このように、飲食店や地域の商店と連携し、共同で企画を実施できれば、相乗効果で集客力向上が期待できる。また、FacebookやInstagramなどのSNSを有効に活用すれば、発信した情報によっては拡散され、企画の認知を拡大できるかもしれない。他にも新聞やテレビなどのメディアで紹介してもらうことも信頼性において非常に重要である。

(4) 企画実現に向けた第一回目の社交界

「みんなの社交界」は講師を招き、あるテーマについて講演してもらうような単なるビジネスセミナーではない。自分の可能性を広げることは勿論のこと、参加者全員が楽しめること、幸せを共感し合えることができるような企画を第一に考えている。そのような企画を実現させるため、我々のグループでは、「みんなの社交界」の第一回目の企画として、誰かの記念日を祝う社交界「HAPPY〇〇会」を考えた。これは、誰かの記念日を社交界に参加した全員で祝う企画である。誰かをみんなで祝うことで、幸せを共感し、参加者全員が人と繋がることのできる。なるべく祝われない人

を出さないためにも参加者は祝われる側と祝う側になり、何かしらの記念日を決めてもらうことが必要となる。例えば、開催する月に誕生日や結婚記念日がある人、試験に合格した人など些細なことでも良い。また、誕生日のサプライズとして友人や恋人を連れてくるのも良い。祝う方法については、参加者同士で考えてもらい、一体感が生まれるようなものを参加者全員で作ることが良いと考えられる。筆者らは本論文の執筆までに企画を実現することは出来なかったが、前述の「100人サタ会議 in 熊谷」に参加し、企画実践の楽しさ、難しさを学ぶことが出来た。今後は、開催する場所と協力者を見つけ、2018年のゴールデンウィークにHAPPY〇〇会を開催出来るよう尽力したい。

3. 未来企画会議へ参加しての所感

講師の皆様からは、企画について実に様々なことを、実体験を交えて教えていただき、筆者らは従来の常識に捕らわれない頭の柔らかさと多角的な視点の大切さを学びました。また、良い企画を実現するためには企画側の「信念」と「覚悟」が重要だという点は非常に印象深く、今後の業務にも活かしていく所存です。

謝辞

本企画を進めるにあたり、グループで考える機会をご提供いただきましたEICA未来企画会議の皆様、多くの貴重な学びをいただきました講師の皆様に感謝いたします。

参考文献

- 1) マイナビ学生の窓口フレッシューズホームページ
<https://gakumado.mynavi.jp/freshers/articles/35560>
- 2) マイナビウーマンホームページ
<https://woman.mynavi.jp/article/161119-24/>
- 3) シブヤ大学ホームページ, <http://www.shibuya-univ.net/about/>
- 4) 丸の内朝大学ホームページ, <http://asadaigaku.jp/>
- 5) 東京スリバチ学会ホームページ, <http://db.10plus1.jp/backnumber/article/articleid/120/>
- 6) 異業種交流会 AMBI ホームページ, <http://www.ambi-event.com/>